

東日本大震災から10年、これからの10年

災害文化研究会代表 山崎 友子

~~~~~  
私たちは津波のことを忘れてもいけないし、津波のことを引きずってもいけません。現実を受け止め、一人ひとりができることを精一杯やってみましょう。それがいつか田老の町を再建することにつながるのだと思います。

校歌の3番に私たちの進むべき方向が示されています。

防浪堤を仰ぎみよ 試練の津波幾たびぞ  
乗り越えたとし我が郷土 父祖の偉業や跡つがん

田老の先人たちの跡を継ぐのは私たち田老一中生です。私たちはどんな時でもあきらめず、笑顔を忘れず、今までよりも強くて温かい田老一中を、みんなの力で作り上げていきましょう。

頑張れ田老！頑張れ一中！

~~~~~  
2011年4月24日、宮古市の全小中学校が一斉に実施した入学式の日、宮古市立田老第一中学校生徒会長は新入生歓迎の挨拶でこう述べた。(全文は、岩手大学地域防災研究センター HP 公開資料『いのち』p.116参照) 生徒会長の「頑張れ田老！頑張れ一中！」の呼びかけに全校生が声を揃えて「オー！」と応えると、保護者や教職員は驚き、大きな喜びを感じた。田老地区は180名を超える人が犠牲となり、生活の再建・町の復旧というとても重い壁の前に大人は立ちすくむ思いだった。その大人の目の前で中学生は心が震えるほど遅かった。「教育観が180°変わりました」という声を聞いた。教師はこれまでの「学力」を問い直し、生徒の「生きる力」を応援する立場へ、地域社会が初めて存在した学校が、学校がなければ地域社会が存続できない関係へと変わった。

それから10年が経過した。今なすべきこととして、あの時転換した教育観・世界観が維持され、それにそって進んでいるかどうか検証することがある。オンライン講演会で大野眞男氏は、研究においてもパラダイムシフトが求められたと述べ、言語学の立場から被災地との関わりの中で進められる実践と研究の融合を提示された。広田純一氏は、被災地に直結した活動を通して支援組織への支援という新たな枠組みの必要性等を指摘されている。論説・研究ノートにおいて、佐々木力也氏は本稿冒頭の田老第一中学校の教育活動から、黒田大介氏はメディアの分野から、外柳万里氏は支援組織の最先端から、この10年を振り返り、東日本大震災が示した新たな方向への歩みの検証を行い、これからの10年において向かうべき方向への示唆を

与えている。論考としてまとめていただいたことに感謝申し上げる。

10年ひと昔という時間の感覚は「人間の時計」によるものであるが、東日本大震災後に誕生した子ども達は小学校高学年に、あの中学生は社会人へと大きく成長しており、10年という年月の重さを感じる。一方、東日本大震災の余震は未だに続き、「地球の時計」の存在もある。昨年来、世界は新型コロナウイルスのパンデミック状態となり、未知のウイルスとの闘いが手探りで始まった。「地球の時計」を意識して、古代に始まる感染症の歴史を見てみると、災害の本質が見えてくる。社会経済的弱者に集中する被害、そのことによる格差拡大、情報の不透明さの産む恐怖・疑心暗鬼と差別は、昔も今も見られる。現在全国に広がる新型コロナ感染拡大の中で、感染者や医療従事者が差別され、非正規労働者がより深刻な経済的打撃を受け、女性の自殺者が急増している。これらの現象は東日本大震災で見られた被災者に対する偏見、経済格差による復興の度合の違いと共通している。被災した人々・地域に限られた課題という見方ではなく、災害が社会の課題を露わにするとの災害観が必要である。この災害観をもって、それらの課題克服を目指すことが、「地球の時計」のスケールでも課題として残っている。

3.11をやっと思える涙かな

あの日から17文字に思いを託してきた金澤洋子さんの俳句である(p.86)。2018年基調講演を行ってくださった津田喜章氏の「尊厳」というキーワードが「涙」の深い意味を教えてくれる。二つの時計で災害の本質を見極め、「私の物語」を「私たちの物語」にしていく、即ち、社会をよりよいものに変革していくことの大切さを知らされる。北原糸子先生は、明るい言葉で締めくくりたいが言葉が見つからない、と復興の検証どころではない現実を感じておられる。安田菜津紀氏が指摘するように「希望」は被災者にとり強い言葉である。この現状の中で、10年前のあの田老第一中学校生の社会の再生の担い手となって生き抜こうとする姿をもう一度思い出したい。災害が写し出す課題・矛盾をそれまで社会が内包していた課題として向き合うことによって、「希望」は私たちを未来の社会へ導くものとして受け入れられる言葉となろう。そして、これからの10年、災害文化研究を貫く理念としていきたい。

「災害は社会を写し出す鏡です。被災した地域の課題の克服から希望を拓こう！」

災害文化研究会